

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立板橋有徳高等学校 学校運営連絡協議会(定時制課程)
- (2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、教務主任＝事務局
- (3) 内部委員の構成
副校長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、経営企画室長 計5名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、近隣自治会役員(2町会2名)、高島平警察署員 計4名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月14日(金) 午後3時から午後3時45分で本校校長室にて開催
出席者 近隣地域町会役員2名、高島平警察署員1名、校長・本校内部委員6名 計8名
校長あいさつ、各委員の自己紹介
協議委員委嘱、評価委員の委嘱
学校運営連絡協議会趣旨説明、学校経営計画・報告について
本校の教育活動、生徒の現状報告、各分掌及び経営企画室の経営方針について
「有徳だより25号」「有徳だより26号」
 - 第2回 令和6年11月29日(金) 午後3時から午後4時10分で本校校長室にて開催
出席者 高島平警察署員1名、校長・本校内部委員5名 計6名
学校の現状について(教育活動、生徒の現状報告、各分掌の中間状況について)
学校評価アンケートの実施について
教育活動に対する学校評価の内容について
「有徳だより27号」「有徳だより28号」「令和6年度学校案内」
 - 第3回 令和7年2月14日(金) 午後3時から午後3時50分で本校校長室にて開催
出席者 近隣地域町会役員2名、高島平警察署員1名、校長・本校内部委員5名 計8名
学校評価アンケート結果について
本校の教育活動、成果と課題の報告について
「有徳だより31号」
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
令和7年2月12日(水) 書面開催(電話連絡)
今年度の学校評価の結果、協議委員の評価

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象: 53人 回収: 47人 回収率: 88.7%
 - ・12月 保護者全員 対象: 53人 回収: 27人 回収率: 50.9%
 - ・1月 地域・住民 対象: 75人 回収: 41人 回収率: 54.7%
 - ・12月 教職員 対象: 10人 回収: 10人 回収率: 100%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)
学校に対する満足度(無回答を除く全体数からの割合)
 - ・生徒用アンケート Q20: 板橋有徳高等学校に入学してよかったと思う。
 - ・保護者用アンケート Q20: 保護者として子供を本校に入学させてよかったと思いますか。
 - ・地域用アンケート Q9: 知り合いの中学生に対し、本校への入学を薦めたいですか。以上の3問の肯定的な回答A及びBの割合で満足度とすることとしている。
集計結果(無回答を除く全体数からの割合)(A: はい、そう思う。 B: どちらかといえばそう思う。)
 - ・生徒用アンケート Q20: 95.7% (昨年 91.4% 一昨年 97.2%)
 - ・保護者用アンケート Q20: 92.3% (昨年 100% 一昨年 100%)
 - ・地域用アンケート Q09: 94.1% (昨年 73.1% 一昨年 100%)※保護者及び地域アンケートは回答「わからない」を除いて集計

(5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)

- ・今年度は、不登校等の経験のある生徒のみならず、障害のある生徒や日本語指導が必要な外国人生徒など特別な支援を必要とする多様な生徒が入学した。本校の特色である小規模校ならではのきめ細やかな指導に加え、外部専門家との連携によるサポートを行い、生徒一人ひとりのニーズに応じた支援を提供することにした。生徒たちの潜在能力を最大限に引き出し、豊かな学校生活を送ることが生徒の成長にとって大切である。今後も、生徒の成長と満足度向上のための努力を続けていくことが不可欠である。
- ・今年度は、3年次の修学旅行のみならず、全校生徒が参加する宿泊校外学習を実施するなど学校行事の充実に努めた。これらの取り組みにより、生徒たちの変容が顕著にみられ、彼ら自身の在り方生き方について深く考えるきっかけとなり、多くの教育成果を得ることができた。また、文化祭や生徒会を中心とした行事の開催など、生徒たちが主体となって学校活動を充実させることができた。生徒たちが自己表現や協力の中で学びを得ることで、充実した学校生活を送りながら成長を実感することができ、その成果が学校全体の満足度にもつながっていると考察する。今後も引き続き、充実した教育活動や生徒の主体的な取り組みを大切にしていくことで、生徒たちの成長と学校満足度の向上に向けて、さらなる努力と発展を図ることが重要である。
- ・地域にお願いした学校評価アンケートの回収率は減少した。一昨年からの徳丸地域センターの協力により、徳丸地区内の全ての町会・自治会でアンケートを配布しているが、「わからない」という回答が半数を超えるなど、QRコードによるアンケートの実施など改善の余地がある。一方、「知り合いの中学生に対し、本校への入学を勧めたいですか。」という質問の項目において、肯定的な意見の割合が増加した。このことは、近隣中学校やフレンドセンター等に向けた広報活動の強化、消防団と連携した防火・防災パトロールなど地域における活動の充実、学校生活のウェブサイトへ投稿などにより、本校の教育活動への理解が深まったと考察する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・保護者や地域との協力関係を築きながら、生徒たちが成長できるよう全力でサポートしていく必要がある。教育活動の根幹を支える要素を大切にしながら、本校のスクールミッションに向かって進んで行くことで、生徒たちの成長と社会への貢献が実現されるよう、引き続き、全教職員が一致団結し、目標達成に向けて努力を重ねていくことが大切である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・引き続き、本校の教育活動の情報発信を行う。
- ・次年度は近隣の町会と学校のより連携した活動、防災訓練等が地域と連携して実施したい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者、地域に対して、学校の教育活動をあらゆる機会です説明し、理解・協力を得る。
- ・知 徳 体をバランスよく伸長させ、社会に貢献できる生徒の育成を推進する

(2) 学習指導

- ・小規模学校の特性を最大限に活かし、個別の学習ニーズに応じたきめ細かい指導を徹底する。

(3) 特別活動

- ・生徒の能力・適性を最大限に引き出す指導を行い、生徒が達成感を味わえるような学校行事の計画・運営を行う。

(4) 生活指導

- ・生徒の人権意識を高める取り組みを継続的に実施し、SNSの適切な利用についても指導を徹底する。

(5) 進路指導

- ・ハローワークや関連機関との連携・協力体制を強化し、進路決定率向上を目指すサポートを行う。

(6) 健康・安全

- ・コンディションレポートを活用し、従来の見守り・相談体制に加え ICT を活用して、組織的に支援が必要な生徒の早期発見を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数4人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数5名回答(アンケート結果において)

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員の職員会議及び企画調整会議への参加はなし。